

災害時の高齢者の安否確認 及び避難行動等に関する アンケート報告書

石川県民生委員児童委員協議会連合会

今回のアンケートは、近年、災害が頻発しており、厚生労働省・社会援
護局及び全民児連からも、発災時には民生委員・児童委員自らが対応する
のではなく、その状況を自治体につなぐことが重要であり、委員自身の安
全確保を最優先することなどがあらためて周知されました。

そこで、高齢福祉委員会では、各単位民児協における災害時の安否確認
方法等について状況把握し、再確認することを目的にこのアンケートを実
施いたしました。

県内154か所の単位民児協のうち129か所からご回答をいただき、ご協力
ありがとうございました。

なお、このアンケートを実施してから、6月19日には、珠洲市での震度
6弱の地震がおき、8月4日には、大雨により、県内7市町に災害救助法
が適用されるなどの甚大な被害がありました。被害に合われた皆様にはお
見舞い申し上げます。

石川県民生委員児童委員協議会連合会
高齢福祉委員会

目 次

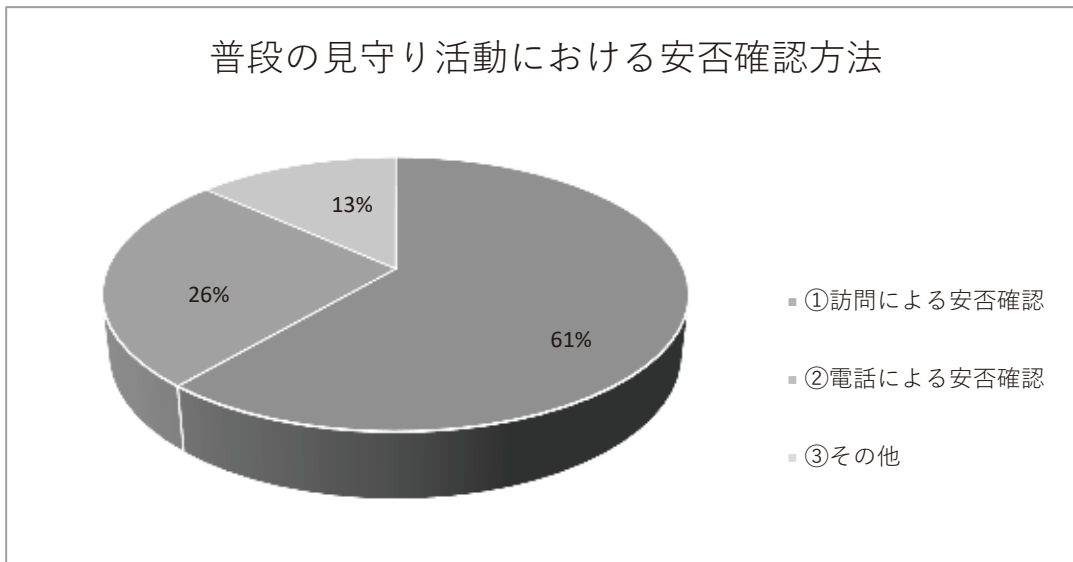
問 1	高齢者の安否確認について	1
問 2	災害時の行動について	4
問 3	単位民児協の取り組み	9
問 4	災害時の高齢者の安否確認に関係することで、お気づき または、気にかけていること等	16
	各委員からの意見・感想	20
	災害時の高齢者の安否確認及び 避難行動等に関するアンケート	23

(複数回答あり)

問 1 高齢者の安否確認について

(1) 普段の見守り活動等において安否確認をどのように行っていますか。

		回答数	%
①訪問による安否確認	①	120	61%
②電話による安否確認	②	50	26%
③その他	③	26	13%
合計		196	100%



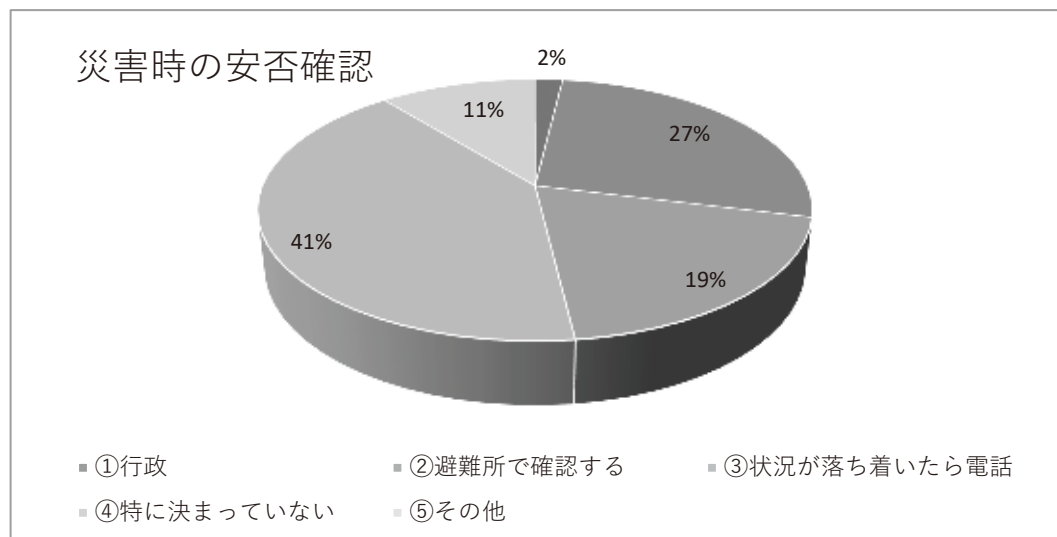
(1)－③その他

・ 結ネットを利用
・ 地域活動への参加の有無による確認
・ メモ等を郵便受けに入れ、その後電話（コロナ禍の対応安否確認）
・ 地区社協よりお米・トイレットペーパー・ティッシュペーパー等年3、4回配布し安否確認をしている（一人暮らしの80才以上が対象）
・ 近隣の人への聞き取りや確認依頼をしている
・ サロン活動、地域住民による情報
・ 回覧板を回す、町内会の配布物の配布
・ 夕方、夜間、照明がついているか、郵便物、新聞はたまっているか、等での確認
・ 状況に応じて

• 近隣の知人等からの情報
• 普段の生活において異変がないか（例えば、夜明かりがつかっていない等）を確認している
• テレビの音が聞こえる。夜間電球が点灯している等によって確認
• 担当地区での会合など
• 電話又はインターホン越しの確認
• 地域福祉推進員との情報交換
• 近辺に協力者有り
• まちぐるみ福祉活動推進員および近所の方からの情報
• 70才以上一人暮らしは毎月訪問している
• 民生委員とまちぐるみ福祉活動推進員が高齢者の見守り活動を40年続けており、常に状況を把握している（健康状態・手術をする。子供の所に行っている）

(2) 災害時の安否確認についてはどのように行いますか。避難指示が発出された場合。

		回答数	%
①行政	①	3	2%
②避難所で確認する	②	42	27%
③状況が落ち着いたら電話	③	30	19%
④特に決まっていない	④	64	41%
⑤その他	⑤	17	11%
合計		156	100%



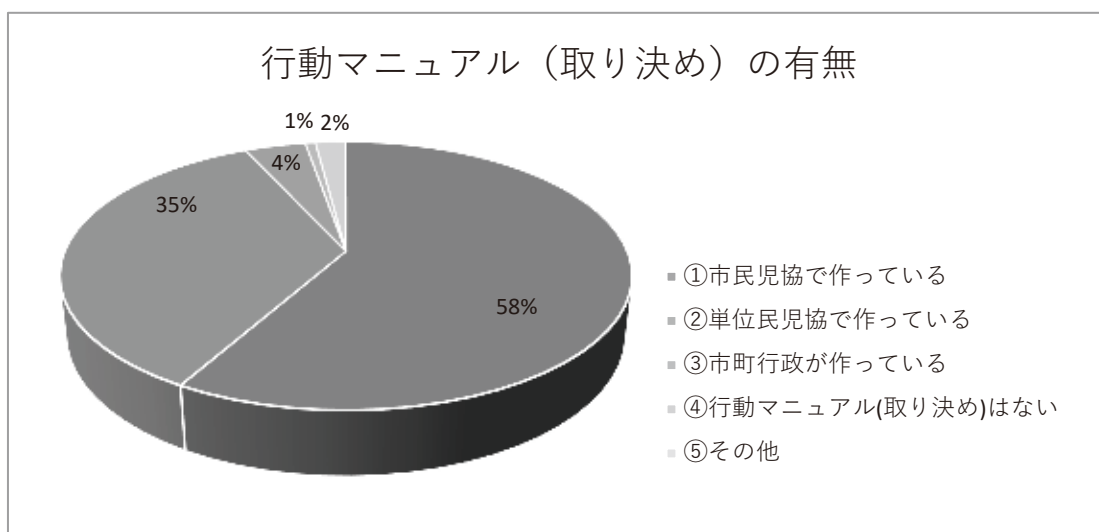
(2) - ⑤その他

• 地域防災計画に基づく行動 災害の種類によって異なる
• 各町会で行う
• 区長と共に行う
• 近所の人に確認する
• 決まっていなくても積極的に行ってる
• 町会と合同で
• 町内の班長が確認する(訪問する)→避難所の町内会長へ報告
• 町会単位で決まっている
• 各町内会に「自主防災組織」があり、その中で協力して確認活動をしている
• 町内では隣組活動を行っており、各組に集合し、それから避難所へ移動する 2度の確認を行う(町会単位での安否確認を実施することを目指している) 向こう三軒両隣精神
• 行政が中心となり、自主防災組織、各町内会、民生委員などで特に75才以上の一人暮らしの方についての安否を確認する
• 担当(見守り宅)に電話、訪問にて確認
• 安否確認用の黄色タオルで確認
• 各町会毎の自主防で取決め、各町会毎での温度差有
• 校下の避難行動要支援者名簿にもとづき、個別避難支援計画で地域支援者が連絡確認する
• 気象を早く確認(各自に不要不急の外出を促し)避難所で確認する
• 避難行動要支援者の安否確認を町会が行う

問2 災害時の行動について

(1) 民生委員児童委員の行動マニュアル等(取り決め)はありますか

		回答数	%
①市民児協で作っている	①	85	58%
②単位民児協で作っている	②	51	35%
③市町行政が作っている	③	6	4%
④行動マニュアル(取り決め)はない	④	1	1%
⑤その他	⑤	3	2%
合計		146	100%



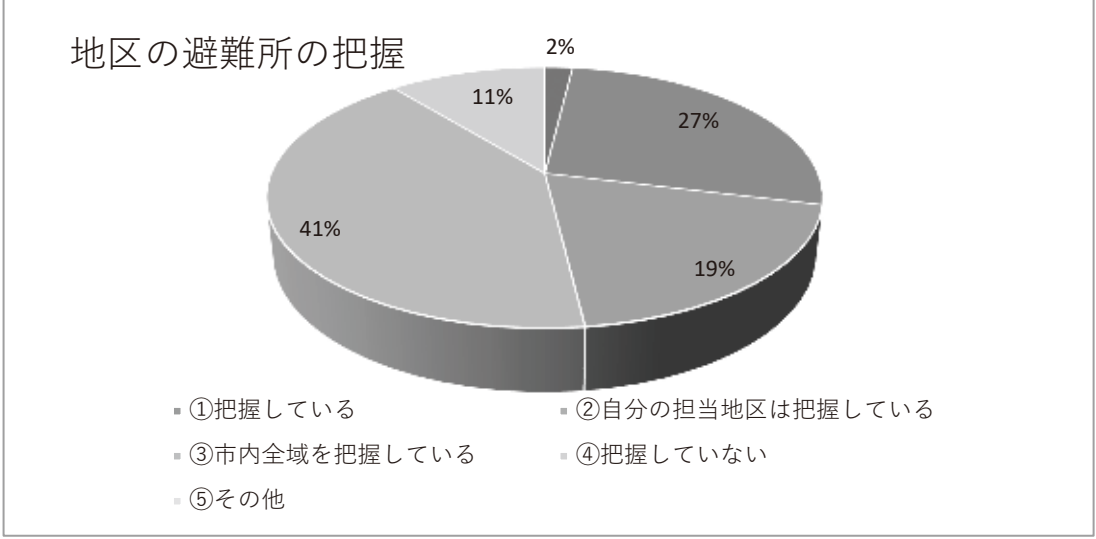
(1)－⑤その他

<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で決めなくては、民生委員だけでは決められない
<ul style="list-style-type: none"> ・全国民生委員児童委員連合会による「災害に備える民生委員児童委員活動に関する指針」
<ul style="list-style-type: none"> ・地区防災組織が作っている（防災士含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時には区長の指揮下に入ることを全員が了解している
<ul style="list-style-type: none"> ・区長と一緒に確認する
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会で、災害時の組織図表を毎年決めていて、全家庭に配布している
<ul style="list-style-type: none"> ・地区防災会で取り決めあり
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、作りたい

- 地区の町会連合会が策定した地区防災計画に基づき、指定された民児協・社協の役割を担っている
 - 定例会や研修会（推進員を含む）で、まずは自分、家族の安全を最優先し、決して、無理な行動はしないように指導している
- ※災害発生時は個人の安全を優先することを指導している
- 自主防への情報提供
 - 個別避難支援計画の地域支援者に民生委員、まちぐるみ、町会の方々の行動対応がある

(2) 地区の避難所は把握していますか

		回答数	%
①把握している	①	3	2%
②自分の担当地区は把握している	②	42	27%
③市内全域を把握している	③	30	19%
④把握していない	④	64	41%
⑤その他	⑤	17	11%
合計		156	100%

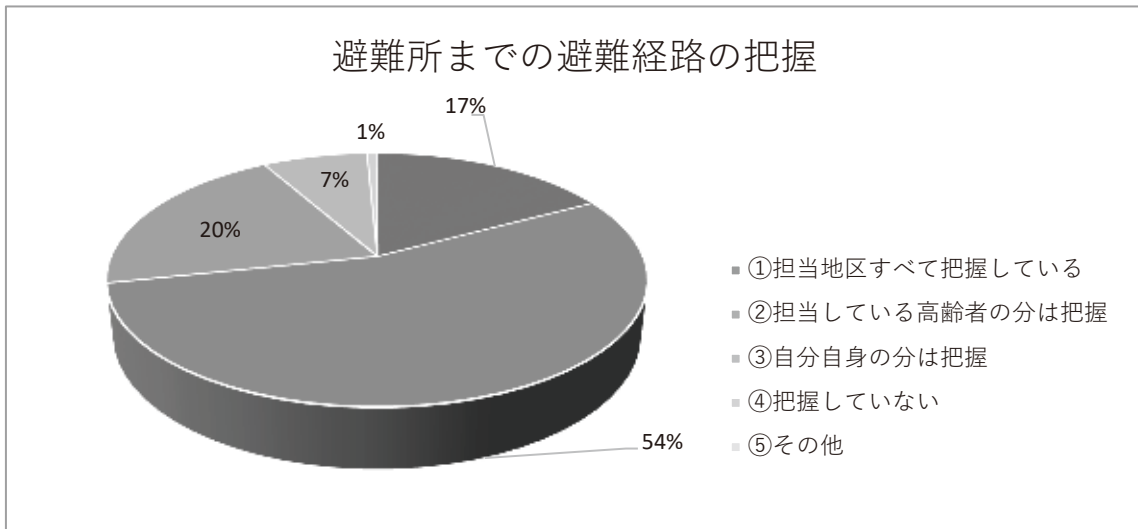


(2) - ⑤その他

- 福祉避難所は不明
 - 全員把握していない
 - 一部把握している
- (地区全体は把握してない) 自主防災会が主体となってすすめている

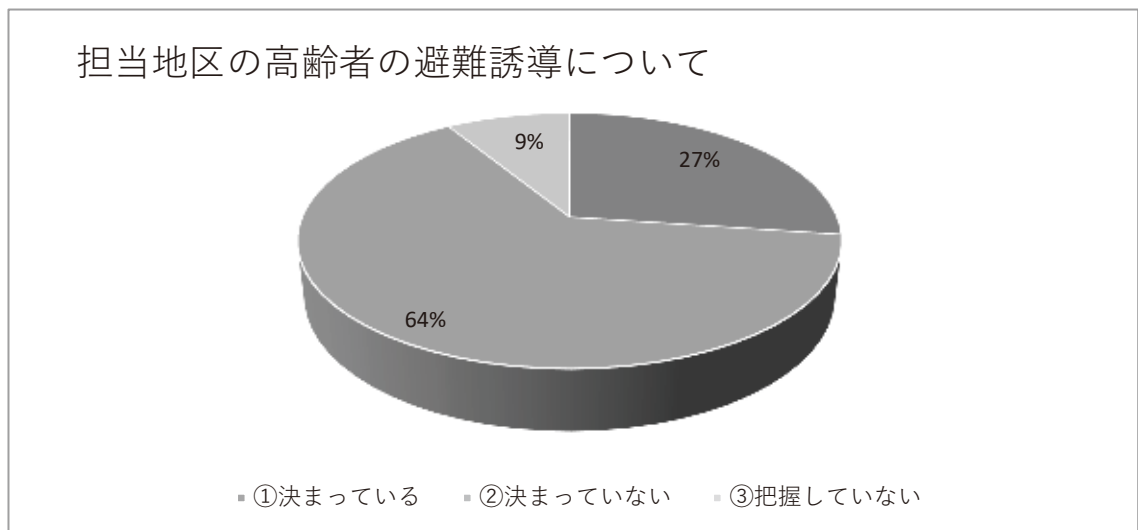
(3) 避難所までの避難経路を把握していますか

		回答数	%
①担当地区すべて把握している	①	23	17%
②担当している高齢者の分は把握	②	73	54%
③自分自身の分は把握	③	27	20%
④把握していない	④	10	7%
⑤その他	⑤	1	1%
合計		134	100%



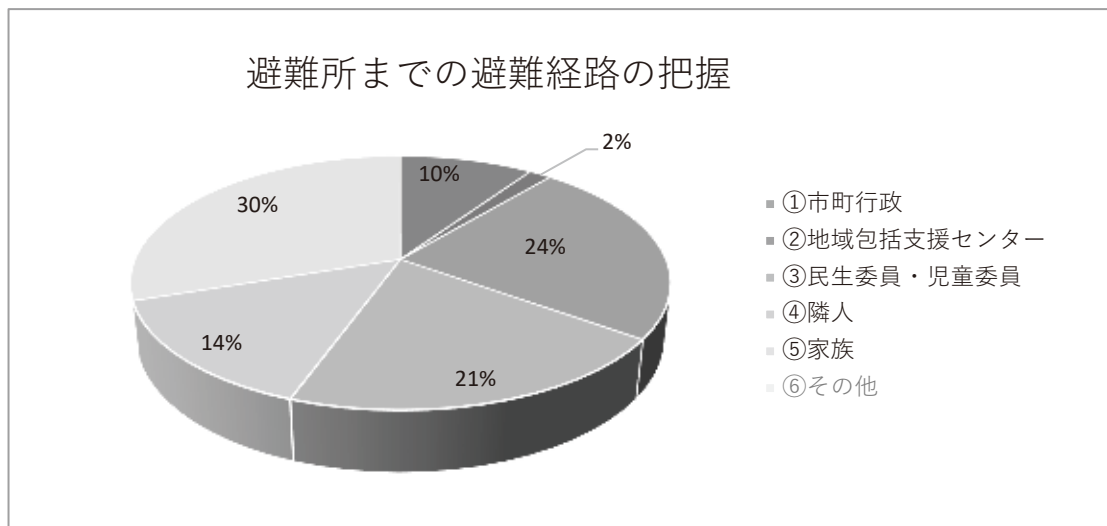
(4) 担当地区の高齢者の避難誘導は誰が行うか決まっていますか

		回答数	%
①決まっている	①	34	27%
②決まっていない	②	80	64%
③把握していない	③	11	9%
合計		125	100%



(5) 避難誘導は誰が行うことになっているのか

		回答数	%
①市町行政	①	6	10%
②地域包括支援センター	②	1	2%
③民生委員・児童委員	③	15	24%
④隣人	④	13	21%
⑤家族	⑤	9	14%
⑥その他	⑥	19	30%
合計		63	100%



(5) - ⑥その他

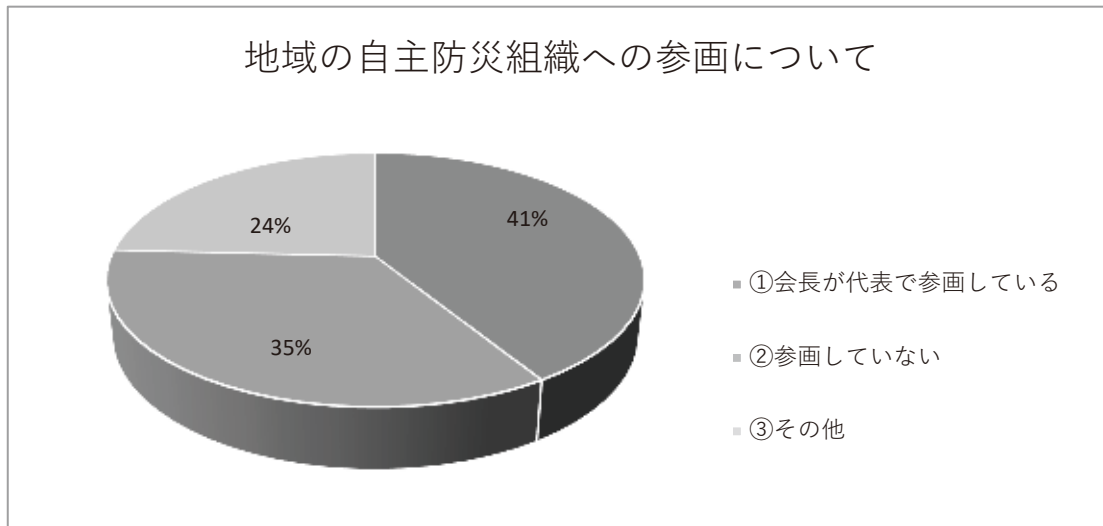
• 避難行動支援者法より独居の方のみマークする
• 町内防災委員
• 町内会役員も加わる
• 町会の班長が誘導することに決まっている
• 町会長
• 各町会住民
• 町会役員と民生委員
• 消防
• 町内の担当者

• 決まっていはいない
• 町内会役員指導者
• 町(内)会
• 福祉協力員と一緒にいう
• 避難行動要支援者支援制度に登録されている支援者
• 町内会の自主防災組織(救助隊)
• 町会長、防災委員
• 町会長、防災委員、地域支援者
• 地区防災組織で担当を決めている

問3 単位民児協の取り組み

(1) 地域の自主防災組織へ民生委員・児童委員は参画していますか

		回答数	%
①会長が代表で参画している	①	51	41%
②参画していない	②	43	35%
③その他	③	30	24%
合計		124	100%



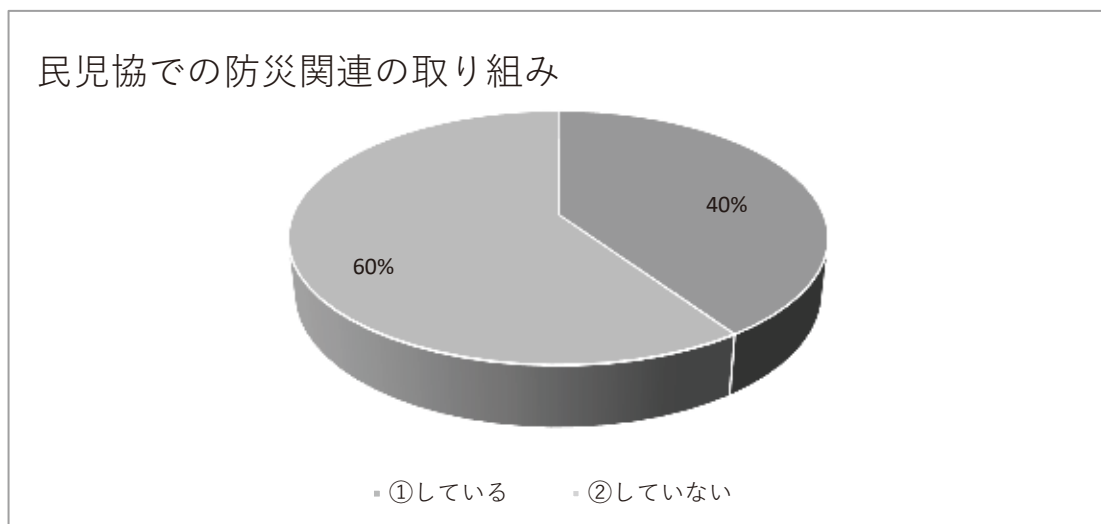
(1) - ③その他

• 各町での組織の中で組込んでいる
• 地区役員が参画している
• 各町会により異なる
• コロナ禍で現在は行われていない
• 会長、委員が防災訓練には参画する各担当をこなす
• 地区内不明
• 町内会の組織へ参画する委員もいる
• 参画している
• 各町会で参加している
• 各町会の民生委員・児童委員が参加している
• 防災士として参画している
• 連合町会の中で協働しています

・参加できる民生委員は、参加するようにしている
・地区により参画しているところあり
・他の役員も参加している
・各町で自主防災組織を構成し、民生委員として参画している
・状況に応じて参加
・地域全体で防災マップ作りをしている
・担当地区には参加している
・会長、副会長が参画し、民生委員全員が総会などに参加
・災害担当の副会長が会議等に出席
・民生委員（まちぐるみ推進員）が、地区防災訓練に参加
・各町会の防災組織に参画
・自主防災組織の訓練（校下、町等の組織）はコロナ禍で中止・停滞している
・町単位の自主防災組織に参画している
・町会別にそれぞれの委員が参画
・民生委員全員が参画している
・全員地区自主防災委員会組織の構成員

(2) 民児協で防災関連の取り組みをしていますか

		回答数	%
①している	①	49	40%
②していない	②	72	60%
合計		121	100%



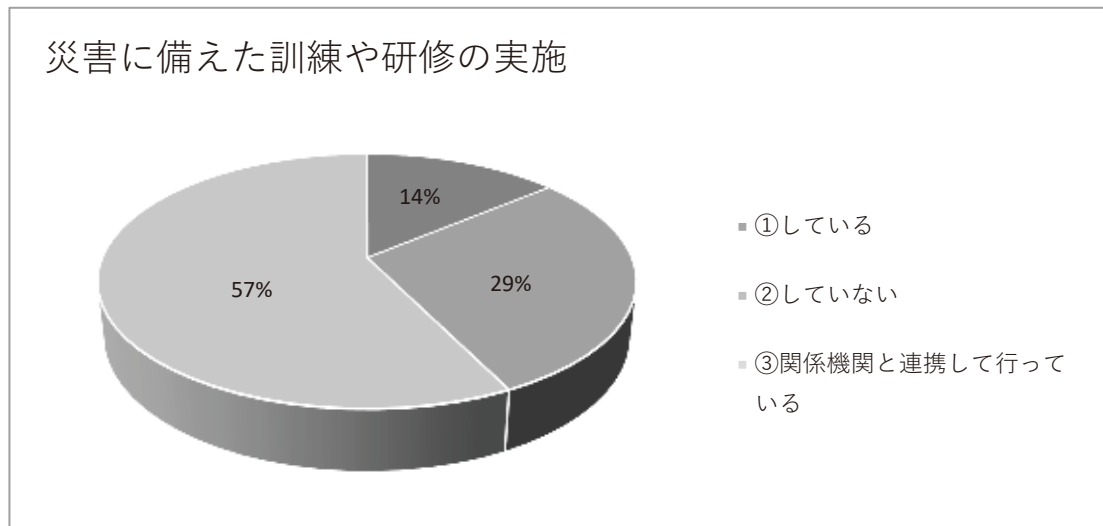
(2)－①と回答された方は、具体的な内容を記載願います

• 9/1の防災の日に各町担当で10～15名の対象者を選んで事前にチラシで広告し当日朝見守り安全確認をしている（市社協協賛）
• 福祉見守り安心マップの作成、更新を毎年行っている
• 年1回町内会避難訓練を行っている
• 毎年9月1日に安否確認訓練を行っており、その都度、対象者名簿を更新している
• ハザードマップの作成に参画している
• 年1回高齢者支援が必要な人の再確認を行っている
• まちぐるみ推進委員（民児含む）でハザードマップで担当宅の確認他見回りも行っている
• 高齢者などの家をマップで表し、各町会長に配布している
• 福祉推進員を含めてのマップ作成
• 見守りマップの作成、安心安全カードの作成・更新
• 3年に1度担当地区を回り、日常生活自立度、認知症の状況、かかりつけの病院等を把握している
• 要支援者マップ作り、担当町会の取り組みに参加している
• 年1回防災マップを作成、町会と共有し有事にそなえる
• 小松市民生委員児童委員協議会事務局による、「災害時要援護者安否確認訓練」を年1回（9月1日朝7：00～）行う。民生委員が要援護者名簿を元に戸別確認し、地区民協長が集計を、市事務局へ報告を行う
• 見守りマップを作成、更新、確認をしている（各町会長、町ぐるみ福祉推進員、地域包括支援センター参加）
• 見守りマップ・避難マップを作成中
• ハザードマップ作成、町全体の避難訓練
• 毎年、秋に安否確認の予行演習を行っている
• 3年に1回の改選時に見守りマップの作成更新をしている
• 見守りネットワークで緊急時の連絡先、避難方法など把握している
• 民生委員と福祉協力員で高齢者や障害者等のマップ作りをしている

<ul style="list-style-type: none"> • 支え合いマップの作成、高齢者世帯台帳の作成・更新、七尾市避難行動要支援者支援制度登録の申請・更新
<ul style="list-style-type: none"> • 日常的な、要支援者の情報収集年1回、福祉推進員と合同で防災マップの更新をしている
<ul style="list-style-type: none"> • 見守りあんしんマップに従って行動を行う。防災士と連携して行動を取る
<ul style="list-style-type: none"> • 市防災安全センターの方にお越し頂き、研修会を開催しています
<ul style="list-style-type: none"> • 社協と共同で、支え合いマップ(住宅地図上での高齢者世帯の位置、区分を表示したもの)の作成、発災時の高齢者の避難等の対応・意識・生活状況等に関するアンケートの実施
<ul style="list-style-type: none"> • 毎年1回行政が作成したハザードマップにより、各々地域毎に高齢者避難行動を地域福祉推進員と共に確認を行っております
<ul style="list-style-type: none"> • 見守りマップ、避難行動要支援者名簿作成
<ul style="list-style-type: none"> • 民生委員各自が担当地域の見守りマップを支え合いマップ作成しており校区全体を作成して更新している
<ul style="list-style-type: none"> • 小学校下の各町内会長5名と民協長で集まり防災訓練方法等下準備を行い、各町民全員で行う、10年程前になるかな
<ul style="list-style-type: none"> • 年1回校下で消防隊員と一緒に防災訓練を、行っている
<ul style="list-style-type: none"> • 見守りマップを更新している。避難行動要支援者名簿活用モデル事業に参画いただいた
<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者と一人暮らしのマップを作成している
<ul style="list-style-type: none"> • 年1回安否確認訓練
<ul style="list-style-type: none"> • 防災士（民生委員兼務）を中心とした委員会を協議会内で設置し、検討している
<ul style="list-style-type: none"> • 毎年実施している防災訓練は校下の防災計画にもとづき、民生児童委員、主任児童委員まちぐるみ福祉推進委員が地域支援者に含まれているので、ハザードの確認の上見守り・支え合いマップ作成し、玄関先までの訓練を実施している
<ul style="list-style-type: none"> • 各自の通学地図で（心配な人）（比較的一人、二人暮らしでも一応元気にしている）を3～4年毎に見直している

(4) 単位民児協独自で災害に備えた訓練や研修を実施していますか

		回答数	%
①している	①	18	14%
②していない	②	37	29%
③関係機関と連携して行っている	③	74	57%
合計		129	100%



(4)で①または③と回答された方は、具体的な内容を記載願います

<ul style="list-style-type: none"> 町内会組織の中で行動している
<ul style="list-style-type: none"> 野々市市生活安全課と災害時の対応等について、講演等を開いて研修した
<ul style="list-style-type: none"> 各町会、町内会の防災組織で行っている
<ul style="list-style-type: none"> 小松市民児協として毎年9月1日に安否確認訓練を行い、地区民児協は対象者名簿を更新している。その結果について小松市地区民児協会長会で報告し、問題点を吸収している
<ul style="list-style-type: none"> 防災センターで研修、体験をした
<ul style="list-style-type: none"> 福祉台帳などの特出し、避難所等の行動を話し合っているが、自主防災会との連携が課題である
<ul style="list-style-type: none"> 民児協では要支援者リストでハザードマップの記入で確認する校下の防災訓練に参加、いろいろポジションを任されて行う
<ul style="list-style-type: none"> 研修会のテーマにする
<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練など
<ul style="list-style-type: none"> 各地区の公民館主催での研修
<ul style="list-style-type: none"> 町内会長との打合せ（特に除雪の応援で高齢者の名簿を出している）

<ul style="list-style-type: none"> 町会連合会と協同で行っている（参加している）
<ul style="list-style-type: none"> 要支援者の把握と訓練への参加
<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大となり、行っていない 以前は（町）。（各町会）で民生委員児童委員も協議会でヘルメット、ベスト、ウィンドジャケットを着用し、参加していた。研修はしていない
<ul style="list-style-type: none"> 連合町会で年1回、防災訓練を実施している
<ul style="list-style-type: none"> 県派遣の講師による講習会関係
<ul style="list-style-type: none"> 校下全体で行っている
<ul style="list-style-type: none"> 町づくり協議会と協力して、安心安全ネットワークの組織の中での研修に参加
<ul style="list-style-type: none"> 自主防災会と合同で他の関係機関と一緒に防災計画に基づいての訓練をしている
<ul style="list-style-type: none"> 各町にて独自の避難訓練を行っている
<ul style="list-style-type: none"> 市の訓練会に参加している（毎年数名ずつ）
<ul style="list-style-type: none"> 単位民児協では訓練をしていませんが各町の訓練や研修に参画をしている
<ul style="list-style-type: none"> DVDや他での研修を定例会で共に学ぶ
<ul style="list-style-type: none"> 年3回民生委員と福祉協力員で研修を行っている。年1回～2回民生委員と福祉協力員と地区のデイサービスや高齢者施設の代表者で研修や話し合いを行っている
<ul style="list-style-type: none"> 町内役員民生委員全員で防災マップ作りをしている
<ul style="list-style-type: none"> 能登島地区地域づくり協議会で開催される研修会に参加。令和3年3月に研修会が開催された
<ul style="list-style-type: none"> 防災センターでの施設見学、研修
<ul style="list-style-type: none"> 地区地域づくり協議会として訓練に参加している
<ul style="list-style-type: none"> 市の危機管理課の職員を講師にして講習を行い、緊急時の行動や民生委員としてどうあるべきかの対応や避難所での過ごし方や、簡易ベッドの組立(ダンボール製)やトイレの利用方法を勉強する
<ul style="list-style-type: none"> わが家の防災ファイル作り 災害時、緊急時の連絡先などの必要事項
<ul style="list-style-type: none"> 町内会主催で年1回防災訓練をしている
<ul style="list-style-type: none"> 前述のマップ作りの際、研修の一貫として社協・まちづくり福祉活動委員とともに、高齢者世帯の状況把握に努めている

<ul style="list-style-type: none"> 年2回行政の行う防災訓練に積極的に参加している。民児協で作成している、緊急連絡網（携帯電話）にて一斉に発信し、災害時を想定した安否確認作業訓練を実施している
<ul style="list-style-type: none"> 会議が開催された場合担当の副会長か出席している（防災会議等）
<ul style="list-style-type: none"> 地区の安心ネットワーク委員会のメンバーとして防災訓練、安否確認訓練などを行っている。HUGも何回か参加した
<ul style="list-style-type: none"> 地域の自主防災会の訓練等に参画している（役割分担等もある）
<ul style="list-style-type: none"> 町会や福祉協議会が行うものに参画している
<ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者名簿活用モデル事業に参画しはじめました（令和3年度～）
<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練などへの参加は民児協としての参加はないが各民生委員は自主的に参加に努めている
<ul style="list-style-type: none"> 年1度、市社協から担当地区に依頼があり、地区民児協会長がとりまとめ、市社協に報告（ライン、電話、Fax等にて）
<ul style="list-style-type: none"> 年1回の自主防災訓練に、全員で参加しています
<ul style="list-style-type: none"> 社協の事業として、地域防災士や町会連合会の代表を講師として迎え、年に一回研修会を行っている
<ul style="list-style-type: none"> 地区会長は防災委員会の一員であり、訓練や研修の実施に参画している。また、提案も行い、民協、まちぐるみ福祉推進委員会に積極的に参加を促している
<ul style="list-style-type: none"> 校下単位、町会単位で訓練があれば参加
<ul style="list-style-type: none"> 民児協の研修会「金沢市避難行動要支援者名簿・活用ガイドブック」地域長寿課橋本行基氏講師
<ul style="list-style-type: none"> 防災士を招いて、防災の研修会を開催している
<ul style="list-style-type: none"> 自主防災委員会構成員として訓練や研修に参加している
<ul style="list-style-type: none"> 自主防災（地区ごと）の研修会。珠洲市一斉での訓練への参加

問4 災害時の高齢者の安否確認に関係することで、お気づきまたは、気にかけていること等があれば自由にご記入願います

<ul style="list-style-type: none"> 町全体の範囲が広く又、対応者が少ない為見守りの数人に絞って行っている（1～3名）
<ul style="list-style-type: none"> 町内会との連携がうまくいか心配している
<ul style="list-style-type: none"> 台風や大雪で自身が動けない場合は電話にて安否確認をしています。地区民児協連絡網を使い委員同士の情報交換もしています
<ul style="list-style-type: none"> 災害時に（もういいわ）と人生を諦めてしまう？
<ul style="list-style-type: none"> 町会と民児協との連携が計れていないため、現在話し合いを行うよう、行政（市）に話している
<ul style="list-style-type: none"> 避難誘導に関するマニュアルは必要と感じている
<ul style="list-style-type: none"> 防災意識が低く対策を早くする必要があると思われる
<ul style="list-style-type: none"> 安否確認等が自主防災会とで話し合われていない。民生委員だけでやる事は不可能だが、それなら誰がするのか？自主防災会の意識を高めていく必要を感じます
<ul style="list-style-type: none"> 大きな災害はないものの最近地震の多いのに心配です
<ul style="list-style-type: none"> この地域は家が集中して存在しているので、となり近所の助け合いが容易です
<ul style="list-style-type: none"> 要支援者台帳に記載されている人で元気で1人で行動出来る人が多くいる。自分での対応が遅い人を注意しています
<ul style="list-style-type: none"> 民生委員だけで考えるのではなく、一気に個別避難計画に対応した方が良い
<ul style="list-style-type: none"> 災害の種類に応じた安否確認の方法を地域防災計画の中で位置づけ、地域全体の情報の共有が必要であると考え
<ul style="list-style-type: none"> 行政・地域・単位民児協のそれぞれの安否確認のための役割の明確化も必要。⇒（互いに活動を理解し合うために）確認を複数でやるのが大切
<ul style="list-style-type: none"> 耳の遠い方等玄関の戸に鍵がかけてあると確認困難、事前の打ち合わせが必要
<ul style="list-style-type: none"> 今まで災害がなかったのでなかなか災害時の作業等ははっきりしていない事が多い
<ul style="list-style-type: none"> 町会役員が毎年交代するが、防災訓練はいつも8～9月頃に行われるため、半年間が空白となっている
<ul style="list-style-type: none"> 実際に災害が発生すれば自分とその家族の安全確保に忙殺されてしまうだろうと考えている
<ul style="list-style-type: none"> 災害がおきた時、民生、児童委員一人で多数の安否確認は、負担が多すぎる。感染拡大で町会が集まることが出来ず、又、防災組織がどの様になっているか知らせていない。不安である
<ul style="list-style-type: none"> 現時点で高齢者に対しての確認マニュアルが策定されておらず、地区、防災委員会で高齢者を含めた安否確認のマニュアルを検討、策定されるよう協力したい

<ul style="list-style-type: none"> 難聴の方への電話確認は、留守電に録音し、返事をもらう
<ul style="list-style-type: none"> 災害時の高齢者の安否確認について考えると不安である
<ul style="list-style-type: none"> 難聴者の対応がむずかしい
<ul style="list-style-type: none"> 安否確認はしている（必須）（訪問、電話等）（福祉推進員、町内役員に情報提供してもらっている）
<ul style="list-style-type: none"> 高齢の方は普段の姿と、外出をする姿の2つの姿の差が激しい方が多い。訓練は普段の延長とお話をするが、外出を意識されてしまう方が多い（＝確認するまで衣替等されて時間がかかります）
<ul style="list-style-type: none"> 地区転入してくる高齢者情報を把握できないのでこまっています。新築集合住宅等
<ul style="list-style-type: none"> 避難所に来られる方の多くは何も持参してこないので困ります
<ul style="list-style-type: none"> 見守り対象世帯以外の同居世帯で、加齢により歩行が困難な方、耳が不自由な方等、町会と連携して把握することの必要性を感じている
<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし、高齢者の2人暮らしの増加により共助が重要で、みんなで支え合いたい
<ul style="list-style-type: none"> 特に独居の高齢者で、車椅子生活や足の悪い方への避難の呼びかけに、民生委員としてどの様に対応したらいいか不安です。当地区では、市街地から離れていて、坂道が多く、どうしても車が必要になり、その対応に苦慮してます
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が増え私達の責任やどこまで関わるかなど個人のプライバシーについて配慮に悩みます
<ul style="list-style-type: none"> あまりに意識が弱すぎる。地域(町会)がしっかり取り組む必要あり
<ul style="list-style-type: none"> 今後、考慮！！
<ul style="list-style-type: none"> 災害はいつ起るか分からないので、その時点でどうなるのか、想像を絶する事になるだろう。すべてが気になる。どのような状態になるか？
<ul style="list-style-type: none"> 「向こう三軒、両隣」が大切であるということで、町内、町内会に対し、この運動を提唱、展開中
<ul style="list-style-type: none"> 時折訪問、困り事の把握に務める。健康状態については特に留意。情報は早くキャッチできるように地域の人達ともネットワークを構築していく
<ul style="list-style-type: none"> 地区には安否確認カードがあります。それを災害事や訓練の時に玄関に外から確認出来るように表示する事になっていますが、避難する人は避難完了の表示を出してもらうと確認作業が非常にたすかる
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を避難所まで運ぶ場合どうしようとする
<ul style="list-style-type: none"> 会長として地区全体は無理であるが、担当民生委員を通しておおよそ把握している。日頃の声かけ、見守りが何より重要である
<ul style="list-style-type: none"> 1人暮らしの高齢者に対しては、自分に危険が及ばない限りは訪問したい
<ul style="list-style-type: none"> 災害は地震や津波を考えていたが、最近夜間の火災があり、高齢者(要支援対象者)の安否確認について、非常に身近におこる災害として、対応の必要性を思いました
<ul style="list-style-type: none"> 民生委員としては、災害が一段落した後、避難所において安否確認の実施及び未確認者の確認対応と考えている。地域全体としての分担について自主防災会と検討中

<ul style="list-style-type: none"> 要支援者名簿にのっていない人でも、自力避難が困難と思われる人の情報収集
<ul style="list-style-type: none"> 歩行が困難な方や、耳の難聴の方を誘導するのに気を付け、安全・安心と勇気づける言葉を話しかける
<ul style="list-style-type: none"> 大規模な災害が起きています。いざと言う時、自分の身は自分で守りつつ、隣近所助け合う事が大事です
<ul style="list-style-type: none"> ひとり暮らしの方の避難誘導がうまくできるか、不安に思います
<ul style="list-style-type: none"> まず近所の人との連携を
<ul style="list-style-type: none"> 地区の防災計画によれば、安否確認は町内会が実施することとなっているか、高齢化が進んでいる地域では町会長が不在のケースもあり、その分民生委員児童委員の負担が増えそうと思われる
<ul style="list-style-type: none"> 地区自主防災会・消防団と連携してマニュアルの作成をしたいと考えている
<ul style="list-style-type: none"> 平成19年3月25日発生 of 能登半島地震を教訓にあらゆる災害を想定した事例など定例会で話し合い災害時の行動等共有に努めている
<ul style="list-style-type: none"> 災害時においては、高齢者のみならず、地域住民全体の安否確認を要し、全体的な確認方法を定めることか必要と思う
<ul style="list-style-type: none"> 町内会などと情報交換をして、常に最新のデータを知るように心がけている
<ul style="list-style-type: none"> 民生委員も高齢化している中で、地区によっては民生委員の役割が重くなってきていることに危惧している
<ul style="list-style-type: none"> 年々、避難擁護支援者が増加しています。災害が発生時には、行政・町会・民児協との連携が不可欠です。日頃、情報の共有のため会合を開く事が必要と考えます
<ul style="list-style-type: none"> 向こう三軒両隣りが主体となって安否確認をすることが基本でその後は町会等の協力しかないと思う
<ul style="list-style-type: none"> 名簿等を作って、町会と一体になって安否を確認するのが良いと考える。災害時には命を大切に一緒に避難する事を各自に認識して貰いたい
<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取扱いに留意している
<ul style="list-style-type: none"> 数年前に津波警報が夜中に出ました。その時、私の担当区域が海岸にあるため、一人暮らしの高齢者宅を訪ねたが、睡眠中なのか応答なしであった
<ul style="list-style-type: none"> 委員本人の安全確保を最優先とし、安否確認を実施するようにしています
<ul style="list-style-type: none"> 安否確認訓練を地域の組織(町内会、連合町内会、学校、消防等)と連携する訓練を早く実施出来れば
<ul style="list-style-type: none"> 近年、住民名簿を提出用紙には年齢を記入することがない為に各地区役員等にては把握しきれない状況
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の方で、歩けない人や寝たきりの方がいるので、その人たちを運ぶ担架や人がたりていない。(車イス・ソイヤカー等)
<ul style="list-style-type: none"> 民生委員と町会が、しっかり協力すれば、安否確認はスムーズに行えると思います
<ul style="list-style-type: none"> 町会によっては避難場所(学校)までの距離があり、高齢者の避難がむずかしい。日中に在宅している65才以下の人がいらない

<ul style="list-style-type: none"> • 現在、市から各町内会に対し、防災計画の作成を依頼しているところで、各町内会において作成中であるが、町内会によっては民生委員・児童委員の参画を要請していない所もあると思われる
<ul style="list-style-type: none"> • 訓練が少なく現実に大地震が発生した場合は大混乱になると予想されます
<ul style="list-style-type: none"> • 平常時で障害者の訓練参画、障害者（聴覚など）との意思疎通が難しい。災害時は高齢者、障害者の方との安否確認は、さらに困難を要すると考えている
<ul style="list-style-type: none"> • 災害の種類によって避難行動が異うが要避難者の現況が握めなければどこの誰れが行うのかさえ決められず。個人情報との事もあるので地区に住む高齢者人数はわかっても決定できない
<ul style="list-style-type: none"> • 災害が起った場合は、マニュアル通りにはならない。町会・隣り近所・各種団体等が協力して安否確認をする体制が必要だろうと思う
<ul style="list-style-type: none"> • 災害時の高齢者安否確認は避難所で最終的に本人との確認になると思うので早めに確認するには通信だと思いますが携帯等はつながりにくいと聞きますので良い方法があれば知りたいと思います
<ul style="list-style-type: none"> • マンション等の集合住宅に居住する高齢者とは、意思疎通が図れておらず、コミュニケーションの形成が課題
<ul style="list-style-type: none"> • 単位民児協内で見守りマップの作成・行動マニュアルの作成が必要だと思う
<ul style="list-style-type: none"> • 自分の安全を確保した上で担当の高齢者の確認をしてほしいと伝えている
<ul style="list-style-type: none"> • 1人の民生委員が何人もの高齢者を助ける事は出来ないなので近隣の方々に災害時には、気にかけて、出来れば助けて欲しいと話している（余裕があれば）（前を歩いている人にでも声掛けして）

<各委員からの意見・感想>

金田勉委員長

「災害時の避難行動について」

かほく市は災害の少ない地域であります。市においては、今は新型コロナウイルス感染拡大予防のために開催されていませんが、毎年、順番に高松地区、七塚地区、宇野気地区で避難訓練を行っています。それと併せて各々のやり方で毎年開催しております。

私たちの七塚地区では山や川がありませんので、崖崩れや川の氾濫による水害の恐れもないのではないかと考えております。また、海のある地域ですが、住宅街は、海拔15m前後の地域にあり、津波の恐れも考えにくいものとなっています。

そのため、地域では、各々の避難訓練の取組にも温度差があるように思われます。

そこで心配なのは、高齢者や障がい者の方たちの避難訓練の在り方です。いかにして訓練をして、もしもの時に備えるか、又、災害が起こったときどのようにして避難させるのが課題となっています。

笠川弘子委員

「アンケート結果を見て」

それぞれの地域で災害に対して温度差があるように思います。

日頃から、町会長、防災士、婦人会、民生委員等の各種団体が連携して情報・状況を把握して、共有することが必要だと思います。

見守りマップを毎年更新して、避難者の支援と方法の把握も必要ですが、最近の警報級の大雨で避難指示が出ても、避難の方法（垂直避難など）、避難所に向かうタイミング、移動方法など判らないとの高齢者の声があがりました。

高齢者対象の講習会を開催することも必要であると思います。

「向こう三軒両隣」日頃から隣り近所と声掛け合い、顔見知りの関係が大切だと思いました。

若山博行委員

「防災意識の向上」

今年に入り、地震や集中豪雨による洪水が県内各地で発生しテレビや新聞等で深刻な被害が伝えられ、改めて地震を含めた自然災害の怖さや対策の必要性を考えさせられました。

集中豪雨などは天気予報等で予見は多少できますが、地震は予見できません。頻繁に起こる小さな地震では生活に大きな障害は無く、それゆえに地震に慣れていくのが怖いと考えさせられ、再度、ハザードマップで避難経路を確認したりして防災訓練の重要性を検討していたところの大きな地震でしたので、被害確認や見守り等は多少出来たかと思いますが改善点など再度検証が必要と感じた。

防災訓練は避難場所の経路の確認や非常持ち出し物のチェックの機会であり、参加を呼びかけ自分自身の備えの確認と家族間での話し合いの場としていきたいと思います。

また、高齢化が進む中、自助・共助が難しくなり地域で考えていかなければならないなど、問題がたくさんあり課題が山積みである。

上野榮一委員

「日頃の近所付き合いが減災の第1歩！！」

私たちの地区でも災害については色々と話し合われ、訓練も組織的に行われています。

訓練の規模や内容が各地区で異なるため、災害時の対応もそれぞれ異なるものと思います。また、たびたび起こる大雨、大雪については、危機感が薄れる場合もあり、迅速な避難行動に影響する場合があります。特に命に危険が迫る場合は、心に余裕がなくなり、情報を取り入れる視野も狭くなります。

ついでに、日頃から、地域での情報の共有・災害時の避難等の手順の確認を確実に行うことのほか、町会等の小さなコミュニティ内では支援が必要な方の情報を含む、住民の情報を共有し、いざという時のために備えることが大切だと思います。それには、やはり日頃から近所付き合い、顔の見える関係づくりを作っていかなければなりません。そうすることによって、「減災」にも繋がると思います。

今回、各单位民児協にアンケートをさせていただきましたが、地域によっていろいろな考え方や対応があることを改めて感じました。

開田朝枝副委員長

「啓発活動への取組みを考える」

私たちの住んでいる羽咋地区では27名の民生委員児童委員が11地区にわかれ、サロンをはじめとする様々な取組みを行っています。

災害関連では、「避難行動要支援者名簿」の実意調査への協力や、安心電池の配布などを行っています。

また、地域の高齢者から、「災害が起こった場合どうすればよいのか不安」との声を聞いたことから、定例会で市環境安全課の職員に出前講座をしていただき学習会を行いました。

今後は、サロンでもそのような講座を依頼するなど、防災等に関する啓発活動も行いたいと考えています。

これから、ますます高齢化が進み、地域でどのように対応していくかが課題だと思いました。

田下一幸委員

「普段の活動、地域社会共同体を見つめなおす」

私が所属する「高齢福祉委員会」で災害時の高齢者の安否確認や避難行動等に関するアンケートを取りまとめている最中に地震が発生しました。

6月19日の15時過ぎで珠洲市で震度6弱が計測されました。隣接する我が能登町は震度5弱で、私の住む地域は震度4程度でした。震源地からの距離の差なのでしょうか。

私たち民生委員児童委員の行動は、自分の安全確保をしたうえで、高齢者等の安否確認を行うものとしています。高齢者の安否確認については、誰と誰が連絡を取り、どんな行動をとるのかマニュアルを備えている団体があると聞いていますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

地震当日の私の行動は、「担当地域の75歳以上の一人暮らしの方」16世帯を訪問し、安否確認を行いました。(津波はなく、日中時の晴天で区域内を自転車で確認)

今後、更なる人口減少と高齢化社会が、地域社会の維持に多くの課題を抱えています。

奥能登は他の県内の他の地域の20年先を歩んでいるのかもしれませんが。

東京都などの大都市と地方の二極化に始まり、地方都市と郡部の二極化が新たに始まろうとしている今日です。この調査を機に、地域社会共同体を見つめる機会としましょう。

災害時の高齢者の安否確認及び避難行動等に関するアンケート

【アンケートの目的】

令和3年8月の大雨による災害において、被災地で活動中の民生委員・児童委員がお亡くなりになられたとの報道もあり、厚生労働省・社会援護局及び全民児連からも、発災時には民生委員・児童委員自らが対応するのではなく、その状況を自治体につなぐことが重要であり、委員自身の安全確保を最優先することなどがあらためて周知されました。

そこで、県民児連高齢福祉委員会では、各单位民児協における災害時の安否確認方法等について状況把握し、再確認することを目的に本アンケートを行うこととしました。ご協力方、よろしくお願いいたします。

【ご記入いただく方】

単位民児協会長

【ご記入にあたって】

- 1 該当するものにすべてに○をつけてください。また、必要に応じて記述願います。
- 2 同封する返信用封筒にて、令和4年2月10日(木)までにご返信願います。
- 3 このアンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
石川県民生委員児童委員協議会連合会事務局
(社会福祉法人石川県社会福祉協議会 地域福祉課内)
TEL076-224-1212
- 4 本アンケートについては、単位民児協名、記入者氏名を公表するものではありません。ただし、記載内容等を確認させていただく場合がありますので、記入者名を記載いただきますようお願いいたします。

単位民児協名 _____

記入者 _____

(4) 単位民児協独自で災害に備えた訓練や研修を実施していますか

- ①している ②していない
③関係機関と連携して行っている

(5) (4)で①または③と回答された方は、具体的な内容を記載願います。

問 4 災害時の高齢者の安否確認に関係することで、お気づきまたは、気にかけていること等があれば自由にご記入願います。

ご協力ありがとうございました。
石川県民生委員児童委員協議会連合会 高齢福祉委員会

